

「Chosun Online は掲載1週間で見れなくなりますので、以下に掲載いたします」

「朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

<http://www.chosunonline.com/news/20091228000029>

●原発輸出：李大統領、陣頭指揮で見せた手腕

- ・事実上の国家対抗戦 李大統領がフランスのサルコジを破った
- ・不利な状況にあった 11 月の初めから、王子に 6 回電話
- ・「百年の知己になる」として説得 「UAE が望むものは最大限受け入れよ」とも指示

11 月初めごろ、李明博（イ・ミョンバク）大統領がアラブ首長国連邦（UAE）の首都アブダビで実権を持つムハマド王子に電話をかけた。UAE への原子力発電所輸出を実現させるためだ。フランスのアレバ社を中心とする企業連合や米 GE-日立の企業連合との激しい受注競争を戦ってきた韓国電力が、「有利な状況にある」と大統領府に報告を行った直後だった。しかし李大統領の感触は違った。現代建設社長だった当時、李大統領は海外で豊富な事業経験を積んできたが、今回は王子に電話をかけた直後に非常体制を取るよう指示した。「あまり良い感触ではない」「雰囲気がおかしい」というのが李大統領の判断だった。ムハマド王子は李大統領に対し、「韓国政府は何をしてくれるのか」という趣旨の言葉をぶっきらぼうに掛けてきたという。李大統領は 11 月中旬、韓昇洙（ハン・スンス）前首相や金泰栄（キム・テヨン）国防部長官らからなる特使団を UAE に急ぎよ派遣した。

ほかの分野とは異なり、原子力発電所の建設受注は国家対抗戦とも呼ばれる。額が非常に大きく、国益を総合的に判断して戦略的に契約を結ばなければならないからだ。過去数十年間、世界各国の原発建設契約が事実上の随意契約で行われてきたのも、このような事情があるからだ。UAE は今回初めて国際競争入札を行ったが、最終的な結論が出る時期が近づくと、やはり政治的判断が大きく作用し始めた。9 月以降は事実上、韓電とフランスのアレバの両企業連合に絞られたが、これは企業同士の地上戦よりも国同士の空中戦の方が重要になってきたことを意味する。

アレバは価格面や工期など、提案書の内容では最低の評価だったが、フランスと UAE は伝統的な友好国でもあるため、サルコジ大統領が中心となって綿密に逆転を狙っていた。サルコジ大統領は「UAE の戦闘機をフランス製のミラージュから最新型のラファエロに交換する。60 機いや 100 機分だ」「UAE に駐屯するフランス軍を増強する」などと提案してきた。ホルムズ海峡をはさんでイランと対峙（たいじ）する UAE への軍事支援を大幅に強化するという意味だ。さらにフランスは UAE が文化的な側面でも発展を目指していることに目をつけ、ルーブル美術館の分館建設も提案した。さらに「UAE が大使館などを持たない国では、フランス大使館を無償で使っても良い」「核の傘を提供

する」などとまで持ち掛けていたという。サルコジ大統領は 5 月にアブダビを訪問し、ムハマド王子に対して週に 2 回から 3 回も電話をかけることもあったという。

李大統領は 7 月に韓電が UAE に提案書を提出する際、「工期を 6 カ月短縮せよ」「事業費をさらに 10%安くして提出せよ」などとアドバイスしたという。韓電の関係者は「李大統領は工期を短縮するよう指示してきたが、最初は無理だと思った。しかし計画を見直してみると可能だった。今回の受注競争では李大統領が事実上の総監督のような役割を果たした」と述べた。

李大統領は 11 月の初めにムハマド王子と初めて電話で話し、これまで計 6 回通話した。さらに外交経路を通じて親書も送ったという。大統領府の関係者は「何よりも李大統領は、韓国と UAE が今回の原子力発電所建設事業を通じて、“百年の知己”になるという点を強調して説得した」と語る。参謀らは李大統領がムハマド王子と電話する際、英語の通訳を置くことを勧めたが、李大統領は「相手の心を動かさなければならない」として、アラビア語の通訳を置くよう指示したという。李大統領は今月中旬に国連気候変動会議に出席するためコペンハーゲンを訪れた際にも、「ムハマドからいつ電話が来るか分からない」として、アラビア語の通訳を常に帯同したという。予想通り李大統領はコペンハーゲンでムハマド王子から、「アブダビに来てほしい」という連絡を受けたという。

李大統領は原発受注に向けた各部処(省庁)による支援を調整する責任を、大統領府の尹鎮植(ユン・ジンシク)政策室長に任せ、「経済、国防、教育、文化など、それぞれの分野で UAE が望むことはできる限り聞いてやれ」と指示した。尹室長は外交通商部、国防部、知識経済部、教育科学技術部、韓電幹部らが出席するプロジェクトチームを指揮するに当たっては、素晴らしい調整力を発揮したという。

これらのプロセスを経て、原子力だけでなくリサイクルエネルギー、ICT(情報通信技術)、造船、半導体、人材育成など、韓国と UAE の間でさまざまな分野の経済協力協定が締結された。軍事面での破格の協力体制構築も大きく作用したという。最終的に経済、安全保障、教育などを網羅するパッケージプログラムが、UAE に提供されることになった。

それでも大統領府と韓電は最後まで気を抜くことはできなかった。先週の時点になってフランスは自分たちの提案内容を修正しながら、UAE 側に働き掛けていたという。フランス政府は最終的には UAE 側が脅迫と感じるほどのジェスチャーまで示したという。しかし 12 月 27 日に UAE が 400 億ドル(約 3 兆 6500 億円)規模の原発建設に向けた契約のために首脳会談に招待したのは、サルコジ大統領ではなく李大統領だった。」